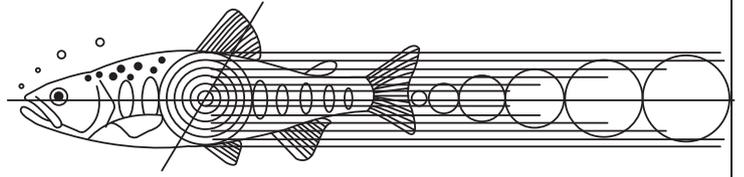


news

長良川市民学習会ニュース



長良川河口堰の開門調査を実現しよう



No.26

2018年 2月 1日

見えてきた長良川河口堰開門のプロセス／活動報告	2
洛東江河口堰開放とその意味	4
「諫早湾の水門開放から有明海の再生」を聞いて	6
2017開門シンポジウム質疑応答より	8
12/3現場視察「開門で塩害は起こるのか？」報告	9
事務局から	11
「よみがえれ長良川」参加団体紹介	12

長良川を放射能で汚してはならない！私たちは、原発の再稼働に反対します。

見えてきた長良川河口堰開門のプロセス

長良川市民学習会代表 粕谷志郎

河口堰の開門に向けた、国際シンポジウムが昨年12月、2-3日に岐阜市で開催されました。長良川、諫早湾、韓国のナクトンガン（洛東江）の現状と展望が示されました。中でも、ナクトンガン河口堰は長良川より7年前に造られ、環境破壊もよく似ています。堰のある釜山市では、2014年に行われた釜山市長選で与野党ともに河口堰の開門を公約しました。15年には新市長が開門を宣言し、国土交通部（日本では国土交通省）と交渉を繰り返してきました。昨年には政権交代も起こり、開門までは間近と思えます。住民や環境団体などが参加し、関係自治体の合意が形成されることが必須の条件のように思えます。

私たち日本では政権交代を経験しています。公然と長良川河口堰反対を唱えた総理大臣が二代も続きました。鳩山由紀夫氏、菅直人氏です。両氏とも、総理になる前に、河口堰下流で船に乗って、私のすくい揚げたヘドロを見て開門の強い意志を表明しておられました。しかし、開門の密かな望みは、密かに終わってしまい、改めて官僚支配の巨岩を前にした無気力時代を味わってきました。ナクトンガンより8年も早い政権交代です。この時不足していたのは関係自治体の合意に他なりません。愛知、岐阜、三重の三県の長はこぞって開門反対でした。政権の力で押し切ることは不可能だったかも知れません。

あれから大きく変わったのは、2011年に行われた名古屋市長、愛知県知事の同時選挙で、「長良川河口堰の開門調査」を公約に掲げた候補が当選したことです。愛知県では専門委員会が設置され、最低5年の開門調査が提案されました。しかし、早速、岐阜県知事は「（農業用水からの）取水ができなくなるほか、1,600haの農地が塩分に汚染され、50億円の被害が出る」との試算を公表しました。海に面した長島町や、海に飛び出した多くの干拓地で塩害が起こっていないことなど知らないのでしょうか、無知な恥ずべき発言です。やはり、ここが変わらないと一歩前に出ることができません。水資源機構のホームページには、相変わらず、100%の海水が河口から15kmのマウンドまで遡上し、マウンドで止められていたとする嘘が載っています。河口堰を開門しても、旧マウンドあたりで塩水が止まることもあれば、さらに数キロメートル上る場合もあるでしょう。マウンドのあるなしにかかわらず、流量で決まる距離です。しかも、海水は5kmも遡上すれば1/3程度に薄まり、先端では急速に薄まり真水に移行します。河口堰以前とほぼ同じ状況にもどるだけです。

活動報告

長良川市民学習会事務局長 武藤仁

前号発行の11月2日以降の活動を「2017開門シンポジウム」を中心に報告します。

当会など長良川河口堰の開門調査実現を求める「よみがえれ長良川」実行委員会は、長良川河口堰、韓国洛東江（ナクトンガン）河口堰、諫早湾排水門の「開門をめざす取り組みの情報交流」と「開門に向けた到達点と今後の課題」を議論する趣旨で、「2017開門シンポジウム」を開催しました。

1日目の12月2日（土）は、岐阜市の長良川国際会議場において、午前の部で長良川と河口堰をめぐる状況の報告が、午後の部で洛東江河口堰問題と諫早湾排水門問題の報告を受け討論が行われました。参加者は約80名でした。

報告「長良川の現状と魅力」は34歳の若き長良川漁師平工顕太郎さんからありました。長良川のアユが激減する中で専門漁師は消えようとしています。漁師の最年少が66歳という危機の中で、平工さんは長良川を拠点に天然アユを獲る川漁師になる決意をしました。現在、平工さんはアユ漁にとどまらず、加工、販売、次世代に川の文化をつなぐイベント企画など多様な取り組みを進めています。最近ではカフェやアユの食文化を伝える店も開店し地域でネットワークを広げています。長良川で清流文化を支えようとするエネルギーギッシュな活動に参加者は感銘を受けました。<https://www.yuinofune.net/>

なお、シンポに先立つ11月16日によみがえれ長良川実行委員会は有志で、9月に開店したばかりの平工さんの店「ゆいのふね」を訪問しました。お店ではお酒も少し入れて、長良川で獲ったモクズガニを味わいました。体もこころも温まる贅沢な日となりました。

講演「長良川河口堰の開門調査の実現をめざして」は、愛知県長良川河口堰最適運用検討委員を務める今本博健先生からありました。講



「ゆいのふね」の前で、左隣はカフェ

演では、利水という目的が破綻する中で浮かび上がった「治水目的」の欺瞞性を、浚渫計画と河積の実態、水位計算に使われた粗度係数の不当性などを明らかにされたうえで、治水については、過剰な浚渫により想定以上に治水安全度が高くなっていると結論付けられました。環境悪化が進む中で不要な河口堰は開門されなければなりません。国は開門すれば塩水が遡上し塩害が発生するとして認めようとしません。しかし、工水や上水についてはすでに愛知県の最適運用検討委員会から別の水源手当案が提示されています。問題は農業に与える影響の危惧ですが、30 km遡上するかは疑問です。

開門調査をしなければ確定できません。最適運用検討委員会は、十分な安全性を考えた開門調査を提案しています。また、今本先生らによる河床調査によれば浚渫後のマウンド部分が再び上昇し元に戻ろうとする状況が観測され、川が生きている状況も報告されました。先生は、開門すれば汽水域が復活するだけでなく水位が低下し砂州やヨシ原が復活し、ヤマトシジミも生息できるようになるだろうと締めくくられました。

午後の部は、石木ダムの映画「ほたるの川のまもりびと」上映、主催者団体の武藤の「韓国の川・環境市民団体との交流報告」の後、講演「洛東江河口堰開放とその意味」、「諫早湾の水門開放から有明海の再生へ」を受け、最後に討論会が行われました。

講演「洛東江河口堰開放とその意味」は、韓国釜山のNGO「湿地と鳥の友」のキム・ギョンチョルさんからありました。洛東江河口堰建設から開門に向けた今日の状況と河口堰開放運動で考えたことを話されました。内容は本紙4-5ページをご覧ください。

講演「諫早湾の水門開放から有明海の再生へ」は、堀良一「よみがえれ！有明訴訟」弁護士事務局長からありました。開門判決と開門禁止判決の相反する訴訟結果がマスコミ報道で伝わる中、堀弁護士からは裁判闘争の複雑な経過と今後の課題について報告されました。内容は本紙6-7ページをご覧ください。

シンポの最後は、長良川、洛東江、諫早湾の報告・講演を受け、参加者からの質問に基づいて活発な討論がされました。とりわけ自分の生き方と川との向き合い方を講師らに問う30代の青年の質問は印象的でした。

2日目の12月3日(日)は、「開門で塩害は発生するか？」というテーマで現場視察を在間正史弁護士の解説で行いました。視察箇所は、現代の「輪中」争議ともいわれる犀川事件(昭和4年)の現場、安八水害決壊(昭和51年)現場、十連坊(輪中堤)、長良川用水新大江揚水機場、高須輪中排水対策施設などでした。視察をして改めて河口堰運用の危険性が認識されました。内容は本紙9-10ページをご覧ください。

岐阜市長選挙予定候補者アンケート 「長良川を守るためのアンケート」 の取り組み

1月28日投票の岐阜市長選挙に向け、よみがえれ長良川実行委員会は7人の予定候補者に対し、「長良川河口堰の開門調査」と「徳山ダム導水路の長良川への放流」について問う公開アンケートを行いました。全員から回答を受け、マスコミに発表するとともに長良川市民学習会のホームページで全文を公開しました。

「開門調査」に賛成、「導水路・長良川放流」に反対を示したのは、小森、中根、森下各候補でした。

「開門調査」に反対、「導水路・長良川放流」に賛成を示したのは、吉田候補のみでした。

選挙の結果大差で勝利した新人で無所属の柴橋正直氏は、「関係各所との協議の上、適切に対応する」との回答で姿勢を明らかにしませんでした。

河口堰閉鎖から22年、導水路「凍結」から9年が過ぎました。私たちが声を上げ続けなければ、市民の関心はなくなり、市長への圧力もなくなります。釜山の市民運動が政治家や行政に粘り強く働きかける中で、河口堰閉鎖30年の今日、開門を実現しつつあることを今回のシンポジウムで学びました。

「長良川に徳山ダムの水はいらない」と会が発足してから10年が過ぎました。引き続き奮闘しましょう。

長良川河口堰 開門へシンポ 岐阜で市民団体

展望を採るシンポジウムが2日、岐阜市の長良川国際会議場で開かれた。韓国にあるナクソンガン河口堰の開門に向けた活動を紹介し、「市民劇的に変わった」と語る活動を紹介し「市民たちの認識の変化に加え、政界の協力を取り付けることも大切」と話した。



河口堰の開門に向けた活動を紹介します。岐阜市長選挙の長良川国際会議場で

2017/12/3 中日新聞

河口堰開門調査 7候補者に質問 市民団体

長良川は環境改善を目指し、河口堰の開門を求める市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」は、二十八日投票の岐阜市長選挙の候補者七人に行った、アンケートの結果を公表した。

長良川河口堰は、海水の浸入を制限し、堰動に「治水と河川環境の浸透を制限し、堰動に「治水と河川環境」がなければ市として機動的に対応したい」と、元民主正院議員の柴橋正直さん(こ)は「長良川は、河川環境に悪影響を与えている」と主張している。

アンケートは、開門調査の必要性について質問。元国会議員秘書の吉田里江さん(こ)は「必要ない」と回答し、理由を「今後、

南海トラフ地震が発生した場合、塩害や断水のリスクが高いため、今やるべきでない」とした。

元市議の森下満寿美さん(こ)、元十六銀行員の小森忠良さん(こ)、尺八講師の中根西光さん(こ)は「水質改善や魚類の回遊のため必要」と答えた。

ほかの三人は「その他」を選択。製菓会社社長の中西謙司さん(こ)は「治水と河川環境確保両面から、要請

2018/1/25 中日新聞

洛東江河口堰開放とその意味

湿地と鳥たちの友達 キム・ギョンチョル



まず私が言いたいのは、私たちは水の管理の一元化をめざしてたたかっているということです。河川の開発は国土省が担当し水質や環境は環境省が担当しています。これらの管理はすべてを環境部に移すとよいのですが、これは政府での問題であり国会の問題です。今、政府は「水の管理」というフォーラムを作って一元化を図っています。私もその委員に加わっています。この方向は、私たちNGOが要求してきたもので、これができるようになったのです。先ほど武藤さんの報告にありました4大河川事業ですが、言われる通りやらなければよかった事業です。5年がたち洛東江（ナクトンガン）の環境は悪化しました。できた堰をなくせばよいのですが、まず水門を開放して、水位がどうなるか、環境や農業への影響がどうなるかなどを調査しています。

河口堰建設で失ったもの



この左の懐かしい写真は1970年代のウルスク島の写真です。シジミ漁の風景です。私は長良川に何度も来ましたがとても似た風景です。この写真の5年後に河口堰建設が着工しました。堰がなかったとき洛東江河口は東洋一の鳥の飛来地でした。1966年保護区に指定されましたが、堰ができてからは分断され、下流側だけが保護区になりました。堰上流側はシジミ漁もできなくなり価値のないエリアとなったのです。

洛東江は延長が520kmですが治水や利水の目的でダムが作られてきました。特に李明博（イ・ミョンバク）政権下の4大河川事業でさらに多くのダムが作られて、本流に流れがなくなり水質が悪くなりました。飲み水の水源とする沿岸住民からは4大河川事業に対する批判が高まり、堰の開放を求める声が高まりました。

河口堰は、工業用水や水道に塩分が入らないようにするために必要だといわれていますが、河口堰ができる前から取水されていました。釜山（プサン）市の水道の取水口は河口から25kmのところにあります。取水できない時もありましたが、それでも1年でたった72時間が最長でした。河口堰は1983年に着工し87年に完成しました。完成して3年でシジミがいなくなり漁ができなくなりました。かつて洛東江のシジミ漁は有名でした。日本にも多く輸出されていました。



左の写真はエツという魚です。祭りの時に食べます。今はほとんどいなくなり、祭りもなくなり、文化がなくなりました。ウナギもかつてはよく獲れました。ウナギ村という名の村もありましたが今は獲れません。



左の写真、なんで鳥がとまっていると思いますか？干潟がなくなり、行くところがなくなったのです。洛東江河口はかつて東洋一の渡り鳥の飛来地でした。洛東江は止められ埋められ、水質悪化、環境悪化が進み、住民の飲み水の水源も悪くなりました。

河口堰の開放をめざして

2012年7月、洛東江河口汽水生態系復元協議会ができました。その前から環境改善を求める運動はありましたが、私たちNGOは常に選挙のとき要求を出してきました。12年12月の大統領選挙において現大統領である文在寅（ムン・ジェイン）氏は河口堰の開放を公約しました。文さんは釜山出身なのです。そして15年9月

釜山市長が洛東江開放宣言をし、いま具体的に施策を進めています。

しかし、釜山市が動いても国が動かなければ状況は打開できません。環境省は動いてくれましたが国土省はだめでした。最初の決断は3年がかりの塩水遡上調査でした。環境省は塩害の影響はないとの結果を出しました。しかし、これはシミュレーションです。先ほど今本先生の話にもあったように実際に実験をしなければなりません。私たちは、これを求めてきたのですが、管理者である国土省は認めようとしませんでした。

しかし今、国土省の姿勢は変わりつつあります。何故だか分かりますか？それは、大統領が替わったからです。それと市民の力です。



農業用水への影響が長良川と同じく議論になっています。図の△は、日本の統治時代に作られた農業用水の水門です。釜山市の西の金海（キメ）市に流すものです。ここではもともと河口堰以前から農業が行われていたのだから堰開門で塩害というのはおかしいのです。水門の改善でも対処できます。地下水に影響が出るのではといわれますが、実験すれば分かることです。また、上流に釜山市水道の100万トン/日の取水口がありますが、実際には60万トン/日しか使いませんので、その

余り40万トン/日を農業用水に回してもよいと私たちは提案しています。工業用水の問題ですが、これは上流の取水口に統合しようと提案しています。

進む河口堰の開門計画

さて、開門試験の計画ですが、今年(2017年12月)から3年間かけて環境省、国土省、釜山市が参加して検証することになりました。そして、市民団体も入って検証作業を行います。これまでは大学や政府の専門家が検証し、市民はその説明を受けていましたが、今回からは最初からNGOが検証作業に加わるのです。現在、来年(2018年)9月までに第一段階に入っていきたいと考えています。

国、市、NGOで作った今後の計画で一番重要視したのは、安全性です。そのために、生物相調査（魚介類など）の実施と24時間体制の塩分測定網の確立をします。そして2025年に完全開放をめざします。

これまでの運動で感じたこと考えたことを述べたいと思います。

一番目に洛東江河口汽水生態系復元協議会についてです。川はただの川ではありません。そこには文化と歴史があります。環境団体だけでなく文化団体も入る多様な協議会にしなければならないということです。二番目は、専門家や政府任せではいけないことです。常に市民が監視し政治家に圧力をかけることです。三番目は、市民がその圧力を大きくすることです。私たちは韓国のクムガン、ヨンサンガンの河口堰開放運動とも連携しパワーをつけています。

最後に大事なことを言います。韓国の有名な童謡に「故郷の春」というのがあります。日本にも「ふるさと」という歌があるでしょう。その中にあの時代が懐かしいという言葉があります。「懐かしい」ってどういうことでしょうか。前の何か懐かしいものを失ったとき、それが人にとって「懐かしい」「愛おしい」という気持ちになるのではないのでしょうか。その気持ちがあれば取り返すことができるのです。取り返さないと二世もすぎると「何が懐かしいの？」となってしまいます。だから取り返しましょう。行動しましょう。勉強するのも大事だけれど、行動しなければなりません。そして連帯して、韓国の河口堰を開け日本の河口堰も開け、日本と韓国のこじれた心も開きましょう。

(講演要約・文責：武藤仁)

堀 良一「よみがえれ！有明訴訟」弁護団事務局長

「諫早湾の水門開放から有明海の再生」を聞いて

報告 堀 敏弘（長良川市民学習会）

今回、久しぶりに 1997 年 4 月のあの潮受け堤防閉め切り（通称ギロチン）の映像を見た。閉め切られた後には魚や貝の夥しい死骸が残されていた。いつ見ても胸が苦しくなるような映像である。



この諫早湾干拓事業は高潮、洪水などからの防災機能の強化と優良農地の造成を目的として掲げ 2530 億円をかけた事業である。ところが着工されるとタイラギの不漁などの影響が出始め、あのギロチン以後は海苔養殖業の不作、底質の悪化、赤潮の発生、稚仔魚の生育の場の喪失など諫早湾干潟の喪失だけでなく宝の海であった有明海全域に被害を与えるものとなった。このため大規模な漁船デモが起き、農水省はノリ第 3 者委員会を作らざるを得なくなる。そして 2001 年 12 月 19 日にノリ第 3 者委員会で短期・中期・長期の開門調査が提言された。しかし農水省自身がつくった委員会にもかかわらず長期調査をすると原因がわかってしまうためサボタージュ、短期開門調査のみでごまかそうとした。

相反する訴訟結果—開門判決/開門禁止判決



堀 良一
よみがえれ！有明訴訟
弁護団事務局長

こうした事態に宝の海の再生をめざす運動が起き、2002 年 11 月 26 日漁民らによる「よみがえれ！有明」訴訟が提訴。2004 年 8 月 26 日には佐賀地裁で工事中止仮処分命令が下るが、福岡高裁はこの仮処分命令を取り消し決定し、工事は再開。2008 年には事業が終了する。2008 年の 6 月 27 日に佐賀地裁で開門判決、2010 年 12 月 6 日に福岡高裁で開門判決が出て、国は上告を断念。開門判決が確定した。

一方、諫早干拓地の入植者や長崎県農業振興公社らは、2011 年 4 月「開門の差し止めを求める訴訟」を提訴。2013 年 11 月長崎地裁の開門禁止仮処分命令を決定。同年 12 月 20 日、開門確定判決の履行期限となり漁民らが強制執行（間接強制）を申し立て。これに対し 2014 年 1 月国は強制執行を許さない判決を求める請求異議

訴訟を提訴したが、同年 4 月佐賀地裁は開門間接強制を決定。

他方、2 か月後の 6 月には長崎地裁で開門禁止の間接強制が決定。2016 年 1 月～2017 年 3 月に長崎地裁で和解協議が行なわれるも 2017 年には長崎地裁で開門禁止判決がでる。この長崎地裁の「開門させたくない原告が開門したくない国に対し開門阻止判決をください」というなれ合い訴訟に対し国は控訴権を放棄した。

国は開門に代わって 500 億円かけた有明海の再生事業や 550 億円かけた調整池の水質の改善などを試みるができず放置。100 億円の漁業基金案の押し付けることで解決しようと図っている。現在は和解協議中。

諫早は国全体の問題

こうして流れを見てくるとこれは諫早湾だけの問題ではなく国全体の問題なのだなとあらためて思った。私自身は 2010 年に開門判決が確定した時も開門実現には懐疑的でありそのような話をしたこともある。というのも 2009 年 1 月のシンポジウムで国土交通省の元官僚で長良川河口堰所長であった宮本博司さんが「（官僚は）個人個人はすごく真面目で一生懸命汗をかいているのです。ところがこれが不思議

なことに、今の組織に入ってしまうと『こんなことは当たり前やんか』と言うことがその組織の中では通らなくなるわけです。その組織だけしか通用しない論理になってしまっていて、それが正しいと思ひ込まざるを得なくなってくるのです。これはなんとも中にいないとわからないのです」と発言されたことがずっと頭にこびりついて離れないからでした。

福岡高裁で確定した開門についても自分たちが上告を断念し判決を確定させておきながら「自分たちのやった事業は否定できない」と平気で三権分立（憲法）を無視するような行動さえ組織人としてはできるのである。堀さんも講演の中で、農水大臣が開放しないと表明しておきながら、「開門調査の事前準備をしたいけれど開放阻止側に邪魔されてできない」と平気で言う。事前に行く場所を教えておいて開門反対の方々がいたのでできないとすぐ帰る。沖縄の基地反対運動だったら強制的に排除されるのにと農水省の姿勢に怒りを訴えていた。

省庁は違うが私たちに取り組んでいる長良川河口堰の開門調査についても宮本さん流に言えば、『愛知県だってすぐにすべてを開放せよとは言っていない。あくまで調査なんだから不都合が起きない状況を作るように努力して調査すれば良いのが当たり前やんか』であるが、塩害が起きるかどうかの調査もしようとしなくて「塩害は起きる」の一言で片づけてしまう。塩害が起きずに調査できてしまったら怖いのであろう。

木曾川水系導水路事業についても同じである。『岐阜の宝である長良川に、それも鶺鴒い会場の上流へ、ダムに溜まった揖斐川の水を流すなんておかしいと思うのが岐阜県民だったら当たり前やんか』であるが、環境保全の名のもとに自分たちの計画だけが正しいと平気で流そうと画策している。

こう見てくると、そろそろ忘れられかけている森友問題もそのまま当てはまる。『あんな大盤振る舞いの割引なんておかしいと思うのが当たり前やんか』であるが「何も書類は残っていません」なんて答弁を国会で平気でできるなんて、三権分立を無視することに比べれば何でもないことなのかもしれない。

あとは、どうしても都合が悪くなれば住民同士の分断と対立をあおっていけばどうにでもなるとでも考えているのだろう。

今後、私たちはどう対応すべきか

講演の最後の「わたしたちの対応」で堀さんは以下の3点を挙げられた。

- 1 経験済みの短期開門調査レベルの開門から始める。
- 2 長崎地裁の開門阻止判決を踏まえ、開門事前準備を徹底させる。
- 3 想定外の弊害に対応し、かつ厳しい干拓地農業に対応するための農業基金を設立。

漁民対農民ではなく漁民も農民も両方が被害者というとりえ方をされていた。このことは私たちも「当たり前」のこととして自分たちの運動の中にしっかりと受け止めていかなければならない。

それにしても今回の講演は、諫早の問題について学ぶことが、それぞれのところで取り組んでいる問題について学び直すことに繋がってくるのが良く見えたものであった。でもその分、木曾川水系連絡導水路事業をなりふり構わない理屈をつけて始めるのではないかと余計に心配になった。これまで以上に注視していきたい。



質疑応答より

講演の後、会場から講演内容についてたくさんの質問が寄せられ、活発な討論が行われました。ここではそのごく一部を紹介します。当日の講演は長良川市民学習会のHP(dousui.org)でご覧いただけます。



武藤仁
(コーディネーター)
平工 顕太郎さん
今本 博健さん
堀良一さん
キム
ギョUNCHヨルさん
キムファン(通訳)

- ◆名古屋市の33歳の男性です。川と自然を守る仕事がしたいと思っています。
今の仕事を辞めて岐阜市へ移住するつもりですが、仕事が決まっていません。
今後どうすればいいか、講師のみなさんから助言を頂けたらありがたいです。

今本 私は来週80歳になります。この歳になって思うんですが人生一回限りですからね。幸い今の日本で餓死するってことはありませんから、情熱を持って、危機感があっても希望を全うしてください。私にはそれしか言えません。

堀 私も大切なことはやっぱり、自己実現だと思うんです。短い人生楽しくやりたいですね。この運動に関わって国に交渉に行ったり、会議や集会に出たり経済的には自己負担が多いですが自分でしたいからできるのです。もっとも、では個人的な裁判の弁護もただでと言われるとちょっと困りますが(笑)。

平工 今34歳です。10年前、川で生活したいと相談した(川漁師の)大橋亮一さんに「川には仕事はないよ」と言われました。でも状況は変わっています。試行錯誤しながら、仕事は自分で作れば良いと思うようになりました。時代のニーズをつかみ仕事内容を変えることで、仕事を自分で開発してやるようにしています。魚を獲り、スマホを利用したり自分で販売することで6次産業化しています。漁をする舟を利用してエコツアーもしています。動くことで仲間も増え、仕事も増え、おかげさまで忙しく働いています。

キム 私の家は大変貧乏で大学へ行けるかどうか分からない状態でした。学生時代や運動の中で悩みが多い時や疲れ果てた時、自然がいっぱいの小さな島に行って、森や水、鳥たちのいる自然の中で生き返りました。そういう自然を守りたい、持続可能な世界とはそういう環境なのだと思います、これを守っていきたくてやってきました。

- ◆キムさん、日本のダム反対運動などについての感想などをお聞かせください。

キム 石木ダム反対運動の映像は何回も見ています。ダム問題だけでなく、基地建設などで同じような問題が起きています。見るたびに日本と韓国はどうしてこんなに似ているのだろうと思います。韓国でもそうした運動に対しては強権的な弾圧があります。このような運動の参加者は年配者が中心でしたが、最近では全国から若者が参加しています。マンガやイラストが描ける人はマンガやイラストで、写真や映像で、文章で、音楽で、それぞれできることを知恵を集めてやれば良いと思います。運動をしてきて一番大切だと思うことは連帯と信頼関係だと思います。

諫早を見て思ったことは、諫早湾の自然の海流を司ってきた大切な自然のモーターを壊してしまったのではないかと、ということです。早く開門しないと手遅れになってしまうのではないかと思います。今回長良川を見て、本当に綺麗でいい川だと思いました。川を守るというのはただ水質をよくすればいいというものではなく、その流域の文化を守ることだと思います。漁をはじめとする産業、それに伴う伝統を含めて大切にすることはじめて川を守ることだと思います。私たちは開門運動を進めながら、祖先が守ってきた生き物と作ってきた文化をデータ化しようということも考えています。ナクトンガンでは開門に向けて進んできていますが、焦らず失敗しないようにしなければなりません。クムガン、ヨンサンガンなど韓国の他の河口堰、日本の河口堰運動のためにも絶対に失敗しないように、慎重に慎重にやっていくつもりです。そして揃って開門を実現し、一緒にお祝いをしたいと思います。

(文責：田中万寿)

12/3 現場視察「開門で塩害は起こるのか？」報告

12月2日(土)の2017開門シンポジウムの議論を受け、12月3日(日)は長良川河口堰の開門をする場合
 どのような課題があるのか現場で検証する視察を行った。長良川河口堰は水資源開発施設として破綻は明らかで
 ある。利水に不要、環境悪化を引き起こしている河口堰は速やかに開門されるべきだが、開門による塩水遡上
 で輪中地帯の農業への塩害の「危惧」が開門への道をふさいでいる。本視察はその農業への塩害危惧の検証を
 するとともに、河口堰建設が洪水対策として必要だったのかを現場で検証するものである。解説は安八水害訴
 訟や数々の長良川河口堰関連訴訟の住民側弁護士を務められた在間正史弁護士がされた。

30名の視察団は、午前10時過ぎにJR岐阜駅を出発し、最初に河口から約40km地点の墨俣を訪れた。

河口堰のゲートは、この地点での観測流量が毎秒800m³に達した洪水時に全開される。ここでは1929年
 におきた「犀川騒擾事件」と呼ばれるものの説明を受けた。揖斐川と長良川に挟まれた地域の「悪水」排水路を、

43k 国道21号
墨俣地点(大垣市)
 (39.2km地点、長良川河口堰より
 約34km上流)



墨俣 正面の水門が長良川に通じ、右手の水門が(輪中を切り割らずに)長良川本堤に沿って開削された新犀川に通じる。



安八水害 現場
 堤防決壊現場で説明を受ける。

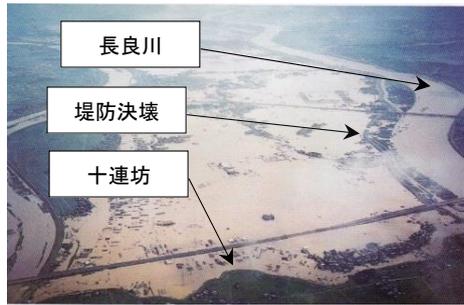
輪中堤を切り裂く形で掘削しようとした政府の方針に対して、地域住民が反対して立ち上がった事件で、鎮圧には岐阜・愛知の600人の警察隊が動員され200人の住民が検挙された。軍隊の出動の要請もあったが、住民の抵抗にあい排水計画は変更され今日の新犀川の建設となった

次に長良川右岸堤防を約5km下り、安八水害決壊現場を視察した。

1976年に起きたこの水害は、「河口堰建設は治水に必要！」という喧伝に使われてきた。しかしこの水害は計画

高水位に達しない洪水だったにもかかわらず、堤防の立地状況と構造の欠陥から崩壊し起こったものだった。決壊現場では、その事実を、当時の裁判の経験を踏まえ詳しい資料を使って解説された。

また、安八水害はこの地域に伝わる伝統的治水の「輪中」の再評価を求めるものだった。右の航空写真で明らかなように、上流の安八町で決壊があっても、江戸時代からきちんと地域で管理され残された十連坊（輪中）によって、下流側の輪之内町は浸水から免れることができた。



1976年 安八水害の航空写真より



十連坊に立つ視察団

この輪中堤によって下流の輪之内町（左側）は守られた。

河口堰の開門調査訴え
市民団体 長良川下流を視察

長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査実現を目指す岐阜市の市民団体などによる現場視察会が3日、長良川下流であり、約30人が参加した。

長良川市民学習会など28団体でつくる「よみがえれ長良川実行委員会」の主催、前日に岐阜市内で開いた「開門シンポジウム」に続き、「開門で塩害は発生するのかわからない」というテーマに、河口堰上流部の農業用水取水口などをバスで巡った。

案内役の在間正史弁護士は「冬場の非かんがい期に開門調査することは何の問題もない」と指摘。韓国から参加した済東江河口堰の開門運動に取り組み非政府組織（NGO）の金敬哲さん（56）は「洛東江より開放への条件はいい。開放さ

れるべきだ」と訴えた。一行は1976年の9・12豪雨災害の決壊箇所や福束輪中なども見学し、治水の歴史と合わせ理解を深めた。（堀尚人）

2017/12/4 岐阜新聞

国、事業者は堰開門で塩水が 30 km 遡上している。このシミュレーションには疑問があり、開門試験が必要である。そこで、視察団は河口から 25.3 km にある新大江揚水機場で、新大江の農業用水使用実態

2017/12/4 朝日新聞

河口堰の今シンポジウムで共有

愛知県が検討する長良川河口堰（三重県桑名市）の開門調査をめぐり、2、3両日、岐阜市の長良川国際会議場などで市民団体のシンポジウムが開かれた。韓国や長崎県からも市民や弁護士が参加した。

実行委員会「の主催。2日は、川漁師が長良川の魅力を語ったほか、同様に環境回復のため河口堰やゲート開放が検討される韓国、長崎県・諫早市の現状報告があった。約70人が聴講した。

3日は岐阜市から桑名市の河口まで長良川を見て回った。開門して上流の汽水域を回復させた際、周辺土壌の塩害発生懸念が最大の障害だけに、国の水質監視装置の充実ぶり、田んぼの浸透水を排除する装置などを見た。

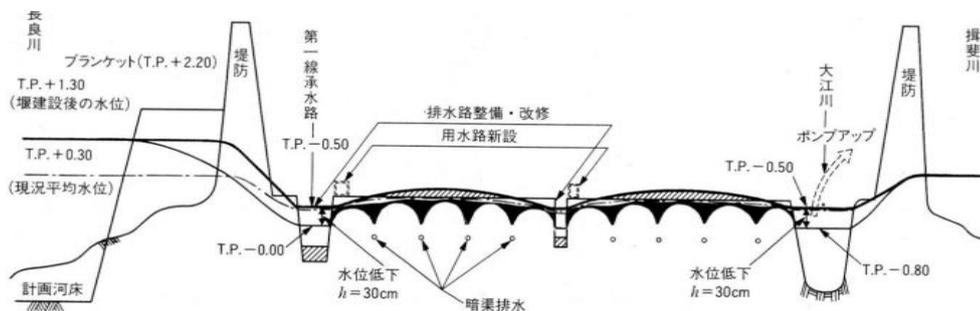
海津市の長良川サービスセンター付近の長良川堤防ではコンクリートブロックが約20段湾曲したり、外れかかったりしていた。1976年の決壊現場をみた後だけに、驚きの声が上がった。一部補修の跡もあり、「河口堰で上流水位を上げたため、水圧で堤防が押し上げてきた現象ではないか。放置すると危険だ」と指摘した。（伊藤晋章）

波打つ土手のコンクリートブロックを見る参加者。背中のが長良川＝海津市

長良川を視察 ブロック湾曲に驚き

の説明を受けた後、愛知県の長良川河口堰検証で提案されている「開門調査」案の農業用水（塩害）への安全配慮などを学んだ。

高須輪中の現場では、河口堰運用に伴う 1 m の長良川の水面上昇による漏水や地下水位上昇対策としての承水路や暗渠排水路の実態を視察した。下図のような莫大な費用をかけた万全の対策にもかかわらず、実際、堤脚部では水路壁が膨らみクラックが現れる場所が見られた。改めて河口堰運用の危険性が認識できた。



今後、今回の視察結果を整理し、河口堰開門に向けた取り組みに生かしていきたい。

事務局から

◆今年の野菜本当に高いですね。セール品を目当てに私も母親の買い物についていくことになり驚いています。そのことに加えて今年から母親の外出時や仕事に介添えが必要になったことも理由の一つです。市民活動も参加しにくくなりますがこれからも続けていこうと思います。本年も宜しくお願い致します。
(中川敦詞)

◆75歳(後期高齢者)に晴れて仲間入りした記念に号を樵水とします。発想の基はメールアドレス bunasuikei@・・・音で読めば樵水=粹では無い。樵は役に立たない木と思われ皆伐されて杉や檜に替わった。生きとし生けるものを育む水に役に立たない水なんてなく、あるとすれば「河口堰の水」と「導水路の水」ぐらいだろう。(ぶなの水)は豊かな樹の水です。
(樵水 粕谷豊樹)

◆おめでとうございます。おめでたいことの少ない新年で、おまけに異常な寒波襲来に、足元ばかり見ながらへっぴり腰で歩いています。

私はカンパをくださる皆様に、ささやかにお礼の気持ちを伝えることを、仕事にしています。地元の方からのカンパは、一緒に長良川を守りましょうね・・・と力強く熱い思いを感じながら嬉しくいただきますが、最近、目立って、遠くの地からのカンパが多くて、きっとこの方は一度も長良川をご覧になったことはないだろうな・・・と思うのですが、それでもご支援をいただけるのは、長良川に・・・というより日本のダム政策、大切な土地や家屋・暮らしを犠牲にして造られるダム、莫大な私たちの税金の使い道に対する抗議の気持ちであろうと思います。そう思えば、全国の期待を担っていることに緊張し、せめて自分に出来ることはしっかりやろう!と思う新年です。皆様今年もどうぞよろしく。
(岡久米子)

◆12/2の「開門シンポ」での堀良一弁護士のお話で、諫早湾の締め切りが有明海全体に与えている大きな負の影響のメカニズムがよくわかりました。生きものの繋がりあいは、一部をいじっただけでも大きな影響が出ます。「貴重種が見つかったのなら、それを移植すれば良いのだろう」みたいなお粗末な対応を許してしまう日本の環境政策を根本から変えていかねばならないと改めて思いました。
(近藤ゆり子)

◆開門シンポジウムで堀さんのお話を聞いて訴訟から交渉への経過など諫早の状況がよくわかりました。パンフレットなど入手出来ましたので、愛知県の河口堰最適運用検討委員会にとっても参考になります。

(富樫幸一)

◇本会では、以下の書籍を扱っています。必要な方はご連絡ください。

- ・ブックレット 諫早湾の水門開放から有明海の再生へ」1,000円
- ・研究誌1~4号 研究誌「有明海的环境と漁業」各500円

◆12/3の現地視察で高須輪中を訪れました。堤防の下の承水路ではかなりの速さで水が流れ、その上の堤防を覆うブロックが膨れて歪んでいる様子に驚きました。素人感覚ですが、川からの水圧のせいでは、と思います。堰上流は常に1.3mの水位で湖のようになっています。ゼロメートル地帯の輪中地帯にとって堰建設は治水のためにはかえって危険になるのではないかと、当初、地元の人たちはとても心配していました。杞憂でなければと改めて感じたことです。
(田中万寿)



「よみがえれ長良川」実行委員会の参加団体を紹介しています。今回はいつも元気でユニークな活動を展開されている。「自然探索 山童」さんです。

参加団体紹介 3

自然探索 山童

長屋丈一郎（事務局）

会の発足動機は、中部電力が板取川最上流部に計画した揚水発電所の是非について考える会でしたが、発電所計画が白紙になって感じたものは「山間の田舎に住みながら、自然に関心が無かった。」という思いであり、ダムを始めとする開発あるいは治山治水事業に関心のある人間が少ないという思いでした。

そこで、色々なことに関心が持てる人間が多くいる地域でありたい！しかし山童が思想を強要することはあってはいけない！という思いから「遊ぶ、遊ぶ、遊ぶ」を基本に、昔の知恵を伝授する遊びであったり、木の芽を食べる遊びであったり、溪を遡行するお花見であったりと自然の中で遊んでいます。手つかずの自然が最善とは言いません、おじいさんは山へ芝刈りにいきましたというように自然と共生することを目指しています。

規約がない山童ですので小回りがきき、会員の誰かが興味のある話しを持ってくるとすぐ食いつくという会でもありますので楽しい情報を宜しく願います。

Blog https://blogs.yahoo.co.jp/yama_gaki/MYBLOG/yblog.html
「自然探索」で検索すると「自然探索 山童」が top になりました。



— ご参加ください！ —

- 2月10日（土） 生物多様性条約 SBSTTA21/8JWG報告 10:00～豊橋市民センター
伊勢湾流域圏の再生シンポジウム（Ⅲ） 13:30～豊橋市民センター
- 2月11日（日） アキノ隊員が語る 生きものそして沖縄 14:00～岐阜市民会館 会議室 80
- 2月13日（火） 平成29年度岐阜県長良川河口堰調査検討会 10:30～グランヴェール岐山
- 2月18日（日） 第5回「清流長良川流域の生き物・生活・産業」連続講座 13:30～
ウィルあいち 3階大会議室 主催：愛知県長良川河口堰最適運用委員会

ありがとうございます。감사합니다!

◆今回のシンポでは、事前の資料作成の段階から十分な準備をしていただいた通訳のキム・ファンさんのおかげでキム・ギョンチョルさんのお話が大変よく理解できました。キム・ファンさんは京都在住で、『ツシマヤマネコ飼育員物語』などの作品の絵本作家です。お世話になりました……

◆またシンポの前日、洛東江河口堰開放をめざす釜山広域市気候環境局河川再生推進団（河口堰開放担当）より、日本の河口堰開放をめざす環境団体に対し熱い連帯の意志を込めたメールが「30年閉鎖されていた河口堰をいよいよ開門試験する」というマスコミ発表文等を添えて、当会あてにありました。感動……！

発行：長良川市民学習会

<http://dousui.org/>

代表：粕谷志郎

連絡先：武藤 仁 / 090-1284-1298

〒500-8211 岐阜市日野東 7-11-1

- 私たちの活動は皆様のカンパで成り立っています。
賛同してくださる方は、ぜひカンパをお願いします。

ゆうちょ銀行口座：00840-3-158403

口座名称：長良川市民学習会